

立秋の候、皆様におかれましては益々ご壮健のこととお慶び申し上げます。

6月の新築移転から数か月たちました。病院の設備も一新され、より高度な医療を行える体制となりました。今回の移転での大きな変化の一つとしてハイブリッド手術室が挙げられます。

既存の病院でハイブリッド手術室を追加しようとすると、広さが限られた手術室に透視装置を設置しなければならず、無理な設計になり機能を犠牲にしなければいけないことも多いといえます。今回は完全に建て替えるということで、手術室の設計段階からハイブリッド手術室を組み込んだことが一つのアドバンテージと考えております。設計段階から介入することで人工心臓を使用した心臓手術に対応可能な手術室としての機能や最新透視装置を用いた高度な血管内治療に適した血管造影室としての機能を損なうことなく組み合わせることができました。新病院に移転後にハイブリッド手術室を使用して6月7月の2か月間ですでに10例以上のステントグラフト内挿術を安全に施行いたしました。

心臓血管外科 部長 小林豊

ハイブリッド手術室について

ハイブリッド手術室とは、手術台と心・血管 X 線撮影装置を組み合わせた手術室のことで、手術室と心臓カテーテル室、それぞれ別の場所に設置されていた機器を組み合わせることにより、最新の医療技術に対応します。

従来の手術室の X 線透視・撮影システムでは X 線装置の出力、透視画像等が高度な術式に対応できない状況でした。また血管造影室では人工物を挿入する操作を行うための清潔度を保つために特殊な努力が必要でありました。

当院のハイブリッド手術室では手術室という清潔な環境で最新透視装置を用いて大動脈瘤治療、あるいは血管修復術の手術であるステントグラフトなどの先進的な手術を迅速かつ安全に実施することが可能となります。現在、胸部および腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換手術、ポートアクセス僧帽弁手術と経カテーテル冠動脈形成手術の同時実施、閉塞性動脈硬化症に対するバイパスとバルーン拡張の同時施行などその治療領域は多岐にわたります。



当院でのステントグラフトの現状

現在当院では多数の大動脈瘤手術を行っておりますが、その中には多発性動脈瘤や、大動脈解離で複数回の心血管治療が必要である患者様も多く含まれております。状態に応じて綿密な計画を立てて臨むこととなりますが、その中でもステントグラフト内挿術は近年大きなウエイトを占めてきました。日本でステントグラフトが保険承認されて10年がたち、特有の合併症や長期成績も徐々に明らかとなり、より安全により正確な適応での治療が可能になってきました。これにより多発性動脈瘤に対する治療もステントグラフトを前提とした治療戦略が多くなり、またそれに対応する人工血管も登場してきました。今回はそれらを用いて当院で施行した多発性動脈瘤に対する手術症例を提示いたします。

症例 / 62 歳、男性

症例は 62 歳、男性。胸痛を主訴に医療機関を受診、不安定狭心症の診断で当科に紹介となりました。術前の CT にて遠位弓部から腹部大動脈に至るまでの広範囲動脈瘤を認めました。まずは不安定狭心症に対して緊急冠動脈バイパス術を施行いたしました。術後経過は良好で退院として外来にて経過観察といたしました。体力の回復を待って初回手術より半年後に胸腹部大動脈置換術を施行いたしました。広範囲にわたる置換は脊髄虚血や手術リスクの増大につながると判断し、腹部四分枝の再建および、最大径を有する部分の置換を目的として行いました。さらに一年後に徐々に拡大傾向を示していた遠位弓部から前回置換した人工血管に至るまでステントグラフトを留置いたしました。その半年後に最後に残存していた腹部大動脈瘤に対してステントグラフト内挿術を行うことにより遠位弓部から両側総腸骨動脈にいたるまでの広範囲大動脈瘤をすべて人工血管に置換して、退院後一週間で職場復帰されました。現在はおかかりつけの先生のもとで全身管理を行いつつ当院でも併診で定期的に follow させていただいております。

すべての手術が終了するまでに約二年間を要しましたが、おかかりつけの先生の協力もあり、無事に治療を完結することができました。



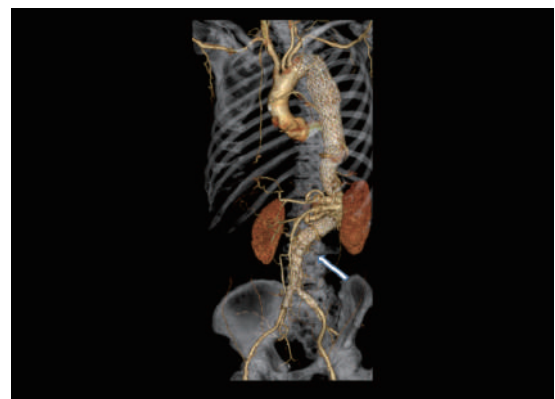
▲初回術前 CT



▲腹部 4 分枝再建を伴う
胸腹部人工血管置換



▲胸部下行大動脈瘤に対する
ステントグラフト内挿術



▲腹部大動脈瘤に対する
ステントグラフト内挿術

2014 年は胸部、腹部合わせて約 60 例のステントグラフト内挿術を行いました。今年も昨年同様定例手術での死亡例はなく、安全に施行しております。緊急症例や、これまで保存的治療がメインであった Stanford type B の大動脈解離にも適応がありますため、当科にて迅速に対応させていただきます。お気軽にご相談いただければ幸いです。